

Once upon a time in Utsunomiya

## 一枚の絵葉書から 第53回 石井敏夫コレクションより

# 平和観音

むき出しの岩肌や露天掘りの岩壁に囲まれた大谷公園。その中央に立つ平和観音の巨像は、石の里大谷の象徴として、あたりを柔和な眼で見守っている。第二次世界大戦による犠牲者の霊を慰め、世界平和を祈念し建立されたもので、像高二十七メートル、胴回り二十メートル、顔の長さ五メートル、足幅一・五メートルを誇る。

彫りはじめたのは戦後間もない一九四八(昭和二十三年)九月。大谷町の石工上野波造氏が一念発起してノミをふるった。もともとこの場所は、大谷石採掘場であつたため壁面を四十メートルほ

ど掘り下げてから彫り始めるなど作業は容易でなかったという。

のちに東京芸術大学の彫刻家飛田朝次郎がこの大事業を引き継ぎ、一九五四(昭和二十九年)年十二月完成。一九五六(昭和三十

二年)五月四日、日光山輪王寺門跡菅原栄海大僧正の手で開眼供養が行われた。(「うつのみや歴史探訪」塙静夫)

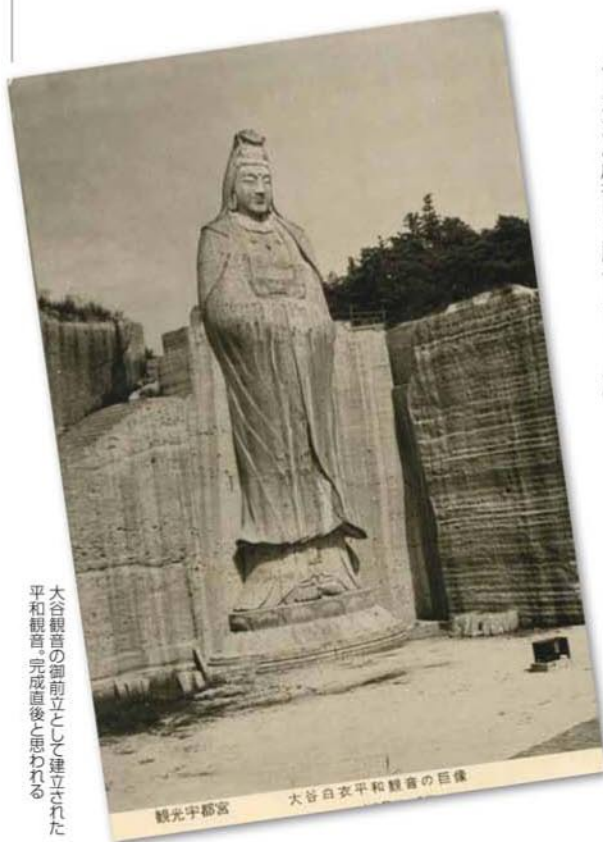
公園に続く参道は大谷石の



平和観音の絵葉書が入っていた、天然色の封筒

石畳が敷かれ、奇岩「天狗の投げ石」など見る場所も多い。また、四季折々に開花する植物が植栽され、訪れる行楽客の目を楽しませてくれる。

平和観音像の展望台にのぼれば、眼下に国重文・特別史跡の磨崖仏を抱く大谷寺の奇観が一望できるほか、「関東耶馬溪」「陸の松島」と称される岩と緑が織りなす光景を満喫できる。



大谷観音の御前立として建立された平和観音。完成直後と思われる



平和観音の尊顔